



日本の大学発ベンチャーの歴史と資金供給

文部科学省
寺崎智宏

1. はじめに

グーグル、ジェネンテック、HP、アイロボット、米国では多くの大学発ベンチャーが経済を牽引し、雇用を創出している。例えば、大学発バイオベンチャーであったジェネンテックは、サンフランシスコ沿岸地域のバイオクラスターの形成を牽引した¹⁾。また、ある調査によれば、1980年～1999年に米国の大学発ベンチャーは28万人の雇用を生んだといわれている²⁾。表1は、いずれも米国の大学発ベンチャーの例である。今日グローバルに活躍し、大きな雇用を創出している企業ばかりだが、注目すべきは、市場原理が徹底的に働く米国社会においてすら、そのコア技術を最初に支えたものは連邦政府の補助金である。グーグルは、ラリー・ペイジとセルゲイ・ブリンがスタンフォード大学に在籍中に起業した会社であるが、グーグルの礎を築く研究は、アメリカ国立科学財団（National Science Foundation, NSF）の補助金を活用して生まれている。同様に、シスコシステムズは米国国防省（Department of Defense, DOD）であり、ジェネンテックはアメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health, NIH）の補助金といったように、多くの連邦政府補助金が大学発ベンチャーの基盤構築に貢献している。

表1 米国の大学発ベンチャーの例

大学発ベンチャー	母体大学	設立年	従業員数(※)	連邦政府補助金
ジェネンテック	UCSF, スタンフォード大学	1976	11,000	NIH, NSF
SAS	ノースカロライナ州立大学	1976	11,080	DOA
シスコシステムズ	スタンフォード大学	1984	66,129	DOD
アイロボット	マサチューセッツ工科大学	1990	538	DOD, NASA
グーグル	スタンフォード大学	1998	19,835	NSF

(※) 2010年当時

(出典) Sparking Economic Growth, the Science Coalition (2010) より筆者作成

今日、日本においても多くの大学発ベンチャーが生まれている。設立数だけで見れば、今よりも2000年代初めのほうが多い。しかしながら、今、多くの大学発ベンチャーが生まれてくる状況を、かつてのように「ブーム」と呼ぶ人は少ない。これは、現在の流れが過去のブームの反省に立っていること、そして多くの関係者が成功への強い自覚に基づいているからだと思われる。日本における大学発ベンチャーの歴史や現状を紐解きながら、課題とその克服にむけた取組などを見ていきたい。

2. なぜ大学発ベンチャーが重要なのか³⁾

国の繁栄に資する大学発ベンチャーの重要性は様々な観点から議論されるが、最もよく指摘されるのは、破壊的イノベーションを通じて、大きな社会的価値をもたらす存在であるということである。